



アサノエイコ「毒・fy」2016 ©Eiko Asano



山本尚志「こや」2016 ©Hisashi Yamamoto, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## アサノエイコ・山本尚志 二人展

# 「poison and small huts」

会期：2017年1月12日（木） - 1月25日（水）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝

レセプションパーティー：1月14日（土）18:00 - 20:00

2017年1月12日（木）より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、アサノエイコ・山本尚志二人展「poison and small huts」を開催いたします。

本展は、書家・山本尚志のキュレーションのもと、書道を国内外のコンテンポラリーアートシーンに対して訴求することを目的とした、八人の書家たちによる全三会場で開催される連続企画『現代アート書道の世界』の第一弾となります。

アサノエイコは、アクリル絵具や水彩カラー筆ペンを用い、まるで絵を描くかのごとく「書」を書きます。「毒」や「鬱」などのネガティブな文字を、その形態を維持しつつも可愛らしいキャラクターのように書く独特の表現は、一筋縄ではない複雑な現代社会の返照となって私たちの眼前に現れます。

山本尚志は、文字を書くだけではなく、自身の基準をもってその文字の概念を図形化（記号化）し、文字と一緒にたに支持体の上に展開します。その光景にどこかユーモアを感じつつも、私たちはそれが果たして三次元（空間）なのか二次元（平面）なのか、文字なのか絵なのか、美なのか醜なのかという様々な問いに揺さぶられることになるのです。

いずれにせよ、これら両者に共通することは、書道のアイデンティティーの境界線を意識しながらも従来の概念を「ズラす」ことにあります。文字を書くということが前提とされる書道の制約を逆説的に利用しつつ、自覚的にその制約の先を目指そうとする試みは、鑑賞者を新たな地平に導いてくれることでしょう。この機会に是非ともご高覧ください。



## ■作家コメント

幼少時、書よりも絵を描くのが好きだった。

頭の中は何をしても自由。だから、いろんなものを勝手に登場させ、描いていた。

小学生の時、兄がセイウチのぬいぐるみを買ってきたが、ちっとも可愛くなかったのが、可愛く描き直したオリジナルキャラクターがあった。私の書が擬人化しているのは、多分ここから来ている。

作品「毒・fly」を書いた時、目を入れてみたら「毒ちゃん」という生き物になった。その毒ちゃんが、友達を連れてくる。次に来たのは「害ちゃん」だ。以来、私は友達を紹介されるまま書いている。

私の作品で、墨で書いている作品は殆どない。

字を書く事にはどんなものであっても良いと思うからだ。それに、必ずしもそれが墨の「黒」でないといけないとも思わない。

今、私は現代の人々についておそらく書いている。

人は皆、自分をより良く見せようとする。その背伸びした状況が己を苦しめている。

ストレスによる疲労、満足のいかない毎日。心の中にネガティブな部分生まれ、ついには病気にもなる。

しかし、その悲しさと、それでも表面を取り繕おうとするところに、私は人間らしさを感じるのだ。そして、そんな人々を「字」という生き物(=キャラクター)にして書いている。

現代人のネガティブさをいかにポジティブに見せられるか？が私のテーマ。

きっとそれは、作品を観ている「あなた」に似た生き物を、探してほしいのかもしれない。

2016年11月 アサノエイコ

新年の発表にあたり、ここまで自分が思考を進めてきて、わかったことがいくつかあった。それは自分の書が、かつてからの記憶を書いているのではないかということに思い当たったのである。

例えば、今回の発表作の一つ「こや」は、私の5歳の頃の記憶をたどっている。いわゆる段ボールでできた「ひみつきち」を、私は幼稚園の友人達数名と作っていた。

それはどこかの河原であった。数日後に、その場所に赴いてみると、すでに「こや」はなかった。私たちは非常に落胆したが、同じ「こや」を作ることは、もう二度とできなかった。

最初のその秘密基地が我々なりに最高の出来だったのであった。だから私はそれから、その段ボールでできた小屋のイメージを幾度と無く思い出す作業をしていた。

実は今回の作品もそうだ。しかし、やはり全く思い出せない。段ボールの角度がこんな感じだったとか、ここで支え合っていたとか、もはや私は何のために記憶を辿ろうとしているのかもわからない。

しかし、幼稚園の時に友人達と遊んだ記憶は、ただそれだけなのである。その時のことを書いているのである。

誰にとっても大事でない記憶。けれど、それは私にとっては大切な記憶なのである。

2016年11月 山本尚志

## ■レセプションパーティ

日時：2017年1月14日(土) 18:00-20:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

※作家二名が在廊致します。



## ■関連情報

### 連続企画『現代アート書道の世界』

本展の他、山本尚志キュレーションによる以下の展覧会を開催致します。

#### 特別協力

伊藤忠青山アートスクエア  
新宿高島屋美術画廊

#### 「書の未来展」

会期： 2017年1月17日（火）～1月25日（水）会期中無休

時間： 11：00～19：00

入場料： 無料

出展作家：アサノエイコ、沢村澄子、ハシグチリントロウ、日野公彦、宮村弦、森本順子、山本尚志、湯上久雄、（特別展示 井上有一）

会場： 伊藤忠青山アートスクエア（東京都港区北青山2-3-1 シーアイプラザ B1F）

URL： <http://www.itochu-artsquare.jp/exhibition/2016/shonomirai.html>

#### 関連イベント

公開制作パフォーマンス「鳴サイクロン and とうふ」（入場無料）

出品作家ハシグチリントロウ、山本尚志による競演ライブパフォーマンスを行います。

日時： 1月17日（火）12:00～13:00

会場： 伊藤忠青山アートスクエア

#### 「現代アート書道の世界」

会期： 2017年2月15日（水）～27日（月）会期中無休

時間： 10：00～20：00（平日・日曜日）、10：00～20：30（金・土曜日）、最終日は16:00まで

入場料： 無料

出展作家：沢村澄子、宮村弦、湯上久雄、山本尚志、（特別展示 井上有一）

会場： 新宿高島屋美術画廊（東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目24番2号 新宿タカシマヤ 10F）

URL： <http://www.takashimaya.co.jp/shinjuku/event3/#os10801>

#### 関連イベント

公開制作&インタビュー「現代アートとしての書を語る」（入場無料）

出品作家山本尚志によるライブパフォーマンスを行います。また、同出品作家の宮村弦が聞き手を務め、山本に質問を投げかける形で、現代アートの世界における書道の現在地を探ります。

日時： 2月19日（日）13:00～14:00

会場： 新宿高島屋美術画廊

## 企画共通ステートメント

### 書は現代アートたり得るか？～『現代アート書道の世界』展に寄せて

私がこの表題にある一つの命題に対して取り組んできて、すでに四半世紀が過ぎた。

その間、私の周りを見回してみても、そういった現代アートに対して訴求性のあるような書道界の動きというもの、ほとんどないに等しかったと思う。

いわゆる「前衛書道」の世界、そして「現代書道」と呼ばれる世界、その活動のどれにおいても、美術界からの本格的なアプローチがあったと記憶にあるものはなかったし、あるいはその逆もまたなかった。

なぜ、私がそれをわかるかと言えば、私もまた彼らとは違ったアプローチの仕方をしてきたが、この25年間、そのようなお声がかかることはなかったからである。

つまり、我々のいる書道の世界では、そのようにして、日本のアートシーンに対して、大きな影響を与えることが出来ないまま、時が流れてしまった。少なくとも私はそう思っている。

1957年に、かの井上有一がサンパウロビエンナーレにおいて、大作「愚徹」を発表し、世界中に衝撃を与えてから、すでに60年の時



が経つというのに、だ。

その60年目の今年、すなわち2017年。

日本のコンテンポラリーアートギャラリーの一つであるユミコチバアソシエイツ、若手アーティストの育成を目的とした伊藤忠青山アートスクエア、そしてこれまで日本のアートシーンを見つめ続けて来た高島屋百貨店の協力を得て、ここに3つの現代アート書道イベントが開催されることになったのである。

このことは、これまで現代アートの側からは歯牙にもかけてもらえなかった書道に、救いの手が差し伸べられたと言っても過言ではないと思う。

再三だが、今日に至るまでここまで現代アートの世界から書家が注目されたことは、少なくとも私の記憶にはないのだ。

故に、私はこれを「現代アート書道」の誕生であるここに宣言したい。

本企画は、そうした我々日本の書の歴史の最新にして、近年最大のチャレンジだと訴えるものである。

(書家・山本尚志「現代アート書道の世界」キュレーター)

## ■書籍情報



### 山本尚志 2004-2016 作品集『フネ』

書：山本尚志

撮影：坂本淳 小田康平

デザイン：原耕一 (TROUT)

発行者：佐藤辰美

発行所：株式会社大和プレス

発売元：YKG publishing

仕様：B5 変形、112 頁

2016 年 12 月 17 日 初版第 1 刷発行

※ ご購入は、全国の書店、もしくは YCA オンラインストアにて

<http://ycassociates.thebase.in/items/5024323>

### 作品集『ミライシヨドウ』

書：アサノエイコ 森本順子 日野公彦 ハシグチリントロウ 湯上久雄 宮村弦 沢村澄子 山本尚志

デザイン：原耕一 (TROUT)

撮影：小田康平

発行者 佐藤辰美

発行所 株式会社大和プレス

発売元 YKG publishing

2017 年 1 月 20 日 初版第 1 刷発行

※ 販売情報は、準備が出来次第お知らせ致します。



## ■作家プロフィール

### アサノ エイコ

1983年 大阪府堺市生まれ  
5歳の時より書を学ぶ  
奈良芸術短期大学 美術科 建築インテリアデザインコース 卒業

2015年 TRANSNATIONAL ART 2015 に出品  
2015年 Facebook で、毎日作品を発表する事を開始する  
2013年 仕事を辞め、念願の書道教室を開く  
2010年 日本書芸院 無鑑査となり、教師免許を取得する  
2003年 民間企業に勤めながら、展覧会活動を続け、入賞を繰り返す  
2000年 日本書芸院、読売書法展や堺市主催の展覧会等へ出品し、展覧会活動をはじめ

幼少期より絵と書を学び、それを合わせた別のモノをいつか創りたいと思っていた。  
書道教室を開き、毎日筆を持ち字を書くようになったためその思いは強くなり、作品をつくる事を決心する。  
芸術はいつも身近にあって良いものという考えから、2015年～2016年にFacebookを使って毎日作品を発表していた。  
言葉を絵にする事を大切に、絵を描くように書き、字を書くように描くスタイルである。

### 山本 尚志（やまもと ひさし）

1969年 広島市に生まれる

2016年 個展「flying saucer」（東京・ユミコチバアソシエイツビューイングルーム新宿）  
2015年 個展「マシーン」（パリ・ギャラリーメタノイア、東京・ウナックサロン）  
2014年 個展「タワー」（東京・下北アートスペース、京都・アートフォーラム JARFO）  
2013年 日・中現代精鋭書画作家展「書と非書の際（きわ）」（京都文化博物館）に出品  
2011年～現在 作品ブログ「デイリー書道」に参加  
2010年 一人快芸術（広島市現代美術館）に出品  
2009年～現在 文字区（東京芸術劇場ほか）に参加  
2008年 ソウル書芸ビエンナーレ（ソウル）に出品  
2006年 世界書芸祝祭（ソウル）に出品  
2004年～現在 天作会-井上有一に捧ぐ書の解放展-に参加  
1991年 ウナックトウキョウにて井上有一カタログレゾネのための作品整理に携わる。

-----  
【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ 担当：鈴木

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail]

info@ycassociates.co.jp [website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日